



不要なウィンドウズ設定を削除してスリムにする

高速化 設定のキモ！ サービスと スタート アップとは？

ウィンドウズの設定によって、パソコンを高速化する方法の柱は「スリム化」です。どういうことかという点、同時に動く機能の数をできるだけ減らすよう、ウィンドウズの設定を変更してやるのです。

ウィンドウズにはさまざまな機能が用意されていますが、そのなかには使わないものも少なくありません。1台のパソコンに搭載されているCPUの

処理速度やメモリの容量は限られています。数多くの不要な機能を同時に動かしていると、その分CPUやメモリを消費するので、パソコン全体の動作が遅くなってしまうのです。そこで、不要な機能を動かさないように設定すれば、高速化できるわけです。

使わない機能をすべて無効化して軽くする

スリム化の対象として、まずあげられるのが「サービス」と「スタートアップ」です。どちらもウィンドウズの機能やアプリケーションの各種機能を提供するために実行され、つねに動作しているプログラムのことです。

どちらにも、いくつもの種類がありますが、ユーザーの使わないものが含まれている場合が多々あります。動作させるかどうか個々に設定できるので、不要なものを無効化してやれば、パソコンの動作を高速化できます。

サービスとスタートアップの違いは、ユーザーがログオンしていないときに動作しているかどうかにあります。サ

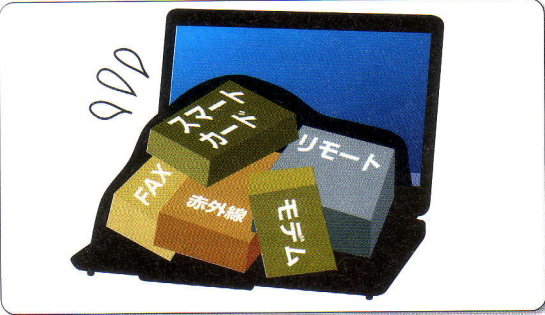
ービスはユーザーがログオンしていても動作していますが、スタートアップは、ログオンしたときに実行されます。サービスの有効/無効はそのパソコンを使うすべてのユーザーを考えて設定しなければなりません。スタートアップは個々のユーザーごとに設定があるので、自分のことだけ考えればよいのです。

サービスとスタートアップの見直しは、起動の高速化にも効果的です。一般にプログラムの起動は、プログラムファイルをHDDから読み込むためにとくに時間がかかります。これはサービスやスタートアップにもいえることで、パソコンの起動時に大量に実行されるサービスやスタートアップを減らせば、起動も速くなるというわけです。他にも、サウンド関係やログ記録など、無効にすることでパソコンを速くする設定があります。

これらウィンドウズの設定による高速化の具体的な方法を、サービスやスタートアップを中心に次ページから順に紹介していきます。

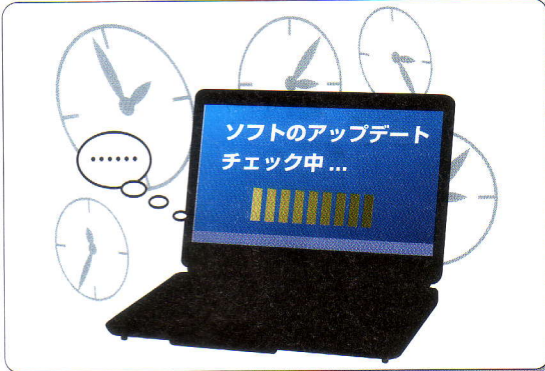
サービス

不要なサービスがたくさん動いていると、パソコンの負担が大きくなり、その分動作が遅くなってしまいます。



スタートアップ

ウィンドウズの起動と同時に起動するプログラムの数が多いほど、パソコンが操作可能になるまでの時間が増える。



不要なサービスを停止して高速化する

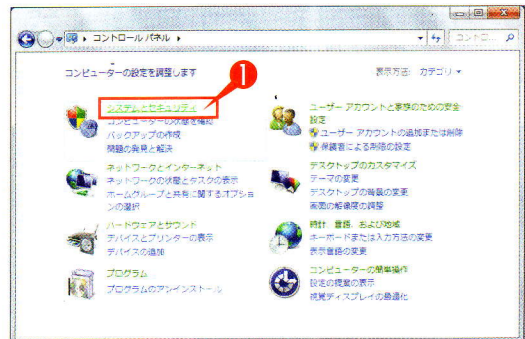


図1 コントロールパネルを開き、①[システムとセキュリティ] をクリック。

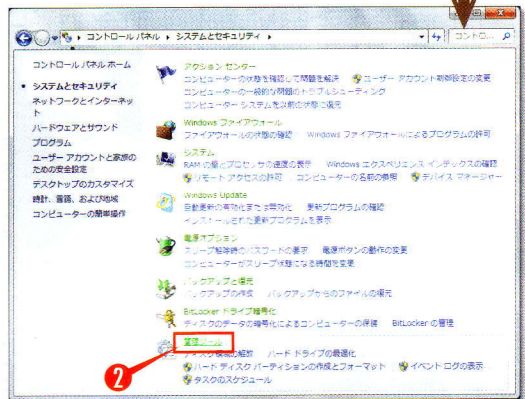


図2 ②[管理ツール] をクリック。XPはコントロールパネルの最初の画面にある。

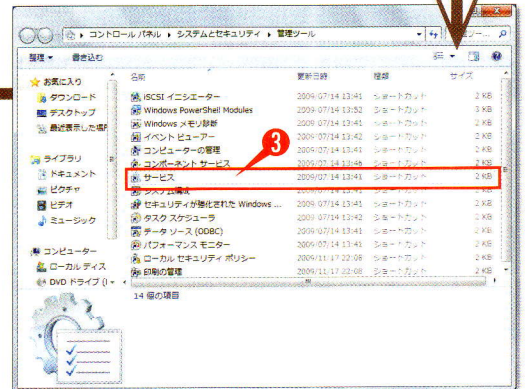


図3 ③[サービス] をダブルクリック。すると、管理ツール「サービス」が起動する。

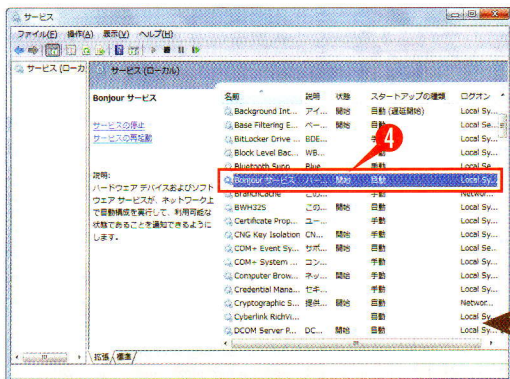


図4 ④無効化したサービスをダブルクリック。

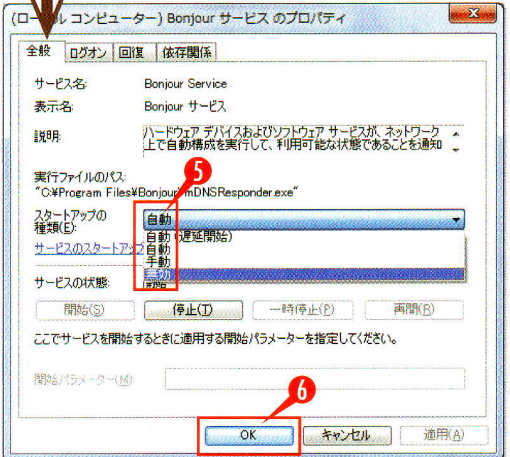


図5 そのサービスのプロパティが開く。「スタートアップの種類」のドロップダウンから⑤[無効]を選び、⑥[OK] をクリックする。



図6 サービスのプロパティが消えて設定完了。サービス一覧にて、そのサービスの「スタートアップの種類」欄が、ちゃんと「無効」と表示されているか確認しよう。

サービスは、ウィンドウズの機能を実現するためのプログラムで多数起動されています。動作中はCPUやメモリ容量を消費するので、数が多くなるにしたがってパソコンの動作は遅くなります。使わないサービスは無効してパソコンを速くしましょう。

それには、ウィンドウズの管理ツールの「サービス」を使います。7やビスタなら【図1】3の手順で起動してください。XPなら、コントロールパネル内の「管理ツール」を開き、その中の「サービス」を開いてください。

無効化の手順は、7でもXPでもビスタでも同じです。「サービス」画面で無効化したいサービスをダブルクリックし【図4】、「スタートアップの種類」を「無効」に設定してください【図5】。「サービス」画面に戻ると「スタートアップの種類」欄が「無効」になっているのが確認できます【図6】。なお、サービスが実際に無効化されるのは再起動したあとです。

「スタートアップの種類」には、「自動」「自動(遅延開始)」「手動」「無効」の4種類があります。「自動」は、パソコンの起動時に実行され、サービスが最初から準備している状態になります。「自動(遅延開始)」は、パソコン

スタートアップの種類とは？

【停止できるサービスの候補例】

サービス説明

Bluetooth Support Service

ブルートゥース機器を初めて接続した際の検出や関連付けの機能を提供。ブルートゥース機器を使わないなら無効化してもよい。

FAX

ファクスの送受信を行う。現在ほとんど使われていないファクスモデム用のサービス。多くの場合無効化してかまわない。

Parental Controls

保護者による制限機能を提供する。「そのパソコンを子どもに使わせない」または「他の制限用ソフトを導入している」なら無効化してよい。

Workstation

ネットワーク上のファイルサーバーへアクセスするのに用いるサービス。ファイル共有などをしていても、相手から読まれるだけなら無効化してかまわない。

Remote Access Auto Connection Manager

ネットワークにアクセスしようとした際、ネットワーク接続がなければ、ダイヤルアップ接続を試みるサービス。ダイヤルアップ接続しないなら無効化。

Remote Access Connection Manager

ダイヤルアップ接続および仮想プライベートネットワーク (VPN) 接続を管理。ダイヤルアップ接続やVPNを利用しないなら無効化してよい。

Remote Registry

リモートユーザーがレジストリ設定を変更できるようにする。セキュリティのためには、積極的に無効化しておいたほうがよい機能。

Shell Hardware Detection

CDを挿入したり、USB機器を接続した際に自動再生を実行するためのサービス。自動再生が不要なら無効化してよい。

Smart Card

おサイフケータイやSuicaといったICカードへのアクセスを管理するサービス。ICカードを利用できる環境はほとんどないので無効化してよい。

Smart Card Removal Policy

スマートカード (ICカード) 認証を使って、盗難や不正使用を防止する機能を提供。日本ではほとんど使われていない機能なので無効化する。

Tablet PC Input Service

タブレットPCのペン入力を実現するためのサービス。タブレットPCでないなら無効化してよい。

Telephony

ダイヤルアップ接続など、電話機とのやり取りに使われる。光やADSL、ケーブルテレビなど、常時接続のインターネットを利用しているなら、無効化してかまわない。アナログモデムを使っている場合は必要。

Windows Defender

これは悪意あるソフトからパソコンを保護するセキュリティソフトだが、他のセキュリティソフトが導入されていれば無効化してよい。

Windows Error Reporting Service

プログラムの動作・応答が停止したエラーのレポートをマイクロソフトに送信する。送信しなくても特に問題ないので、無効化してもよい。

Windows Media Player Network Sharing Service

ウィンドウズメディアプレーヤーのライブラリリストをネットワークで共有するためのサービス。使わないなら無効化する。

Windows Media Center Receiver Service

ウィンドウズメディアセンターのテレビやFM放送などを受信可能にする機能。これらの放送を視聴しないなら無効化してよい。

Windows Media Center Scheduler

ウィンドウズメディアセンターのテレビ番組の予約録画のためのサービス。パソコンでテレビを見ないなら無効化してよい。

WLAN AutoConfig

無線LANの検出・接続・切断・構成に必要な機能を提供する。無線LANを使っていないなら無効化する。無効化してもLANケーブルのつながったネットワークには影響がない。

自動

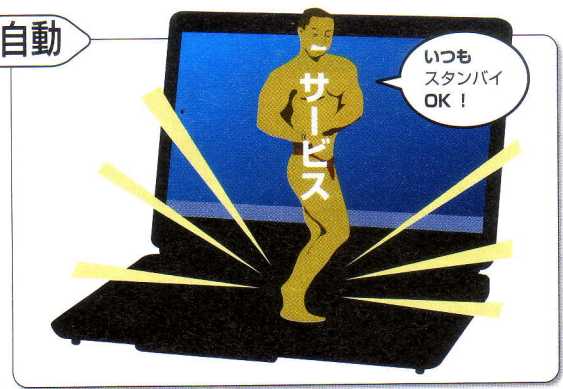


図7 ウィンドウズの起動と同時にサービスも自動的に起動する。「自動 (遅延開始)」は2分遅れて起動する。

手動

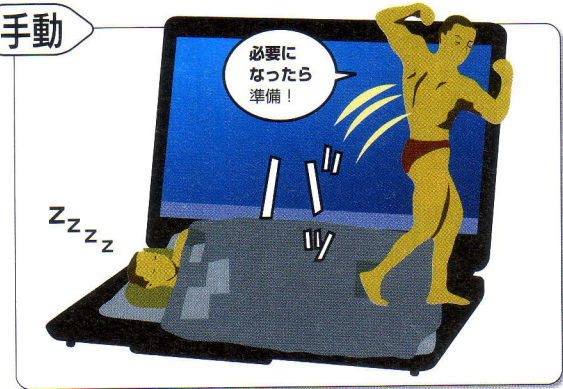


図8 ウィンドウズの起動と同時にサービスは起動しない。他のプログラムからのリクエストで起動する。

どのサービスを無効化するのか決める

ここで迷うのが、どのサービスが必要なのかということです。一覽でサー

の起動から2分後に実行されます【図7】。「手動」のサービスは、パソコン起動時には実行されず、他のプログラムから起動を促されて初めて実行されます【図8】。「手動」だと、知らないうちに起動されてしまうこともあるので、不要だとわかっていいるのなら「無効」にします。

ビジネスを選択すると、画面左側に説明が表示されますが、一般のユーザーには理解しづらい内容です。そこで今回、無効化できるサービスの候補例を左表にあげたので、参考にしてください。また、他のサービスを無効にする際の判断基準は、自分が使わないサービスかどうかです。とくに「周辺機器に関連したもの」や「特定のプログラムの機能を実現するもの」は、使うかわらないかの判断がつかやすすいので、使わないものを見つけたら無効化してしまいましょう。

余分なスタートアップを削除する

【削除するスタートアップ項目の候補】

Adobe Reader Speed Launch
アドビリーダーの起動時間短縮プログラム。あまり使わないなら削除。

cli
ATI製ビデオドライバーのユーティリティソフト。不要なので削除する。

DMXLauncher
デル製メディア再生ソフト用のプログラム。使わないなら削除する。

Digital Line Detect
ファクスモデムのユーティリティソフト。モデムを使わないなら削除。

DVDLauncher
「パワーDVD」用の自動再生ソフト。使わないなら削除する。

ICSMGR
インターネット接続共有機能。そのパソコン経由でインターネットにつながる他の機器がなければ削除。

igfxpers
モニター用のプログラム。いったん削除してみても、画面の解像度が落ちたら復活させる。

IrMon
赤外線で他機器と通信する機能を提供する。赤外線を使わないなら削除。

issch
インストーラー「InstallShield」のアップデート機能。削除していい。

JSクイックランチ
「一太郎」を高速起動するためのプログラム。あまり使わないなら削除。

msmsgs
「MSNメッセンジャー」のプログラム。使わないなら削除する。

reader_sl.exe
アドビリーダーでPDFファイルの読み取りを速くするプログラム。あまり使わないなら削除する。

realsched
「リアルプレーヤー」の自動アップデート。手動で行うなら削除可能。

smax4pnp
オーディオ機器を検出するためのプログラム。音を出さないパソコンなら削除する。

【削除してはいけないスタートアップ項目】

imjpmig
Windows標準の日本語入力ツール「IME」のプログラム。

ccApp
ノートンのセキュリティソフト用のプログラム。

TINTSETP
同じく日本語入力ツール「IME」のプログラム。同じものが2つある。

MSSE
マイクロソフトの「セキュリティエッセンシャルズ」本体。

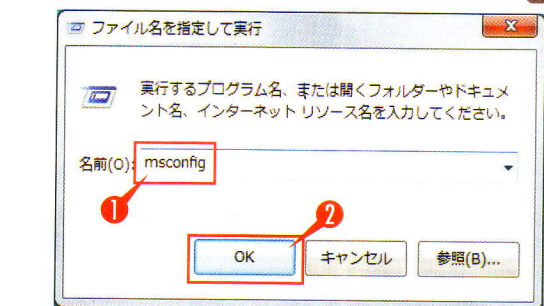


図1 [Windows] キー+[R] キーを押して「ファイル名を指定して実行」を開く。①「msconfig」と入力して②[OK] をクリック。

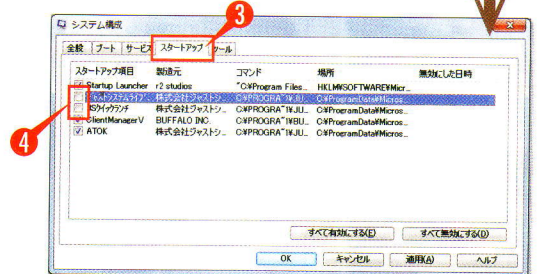


図2 ③[スタートアップ] タブにて、④無効化したいスタートアップ項目のチェックを外し[OK] をクリック。

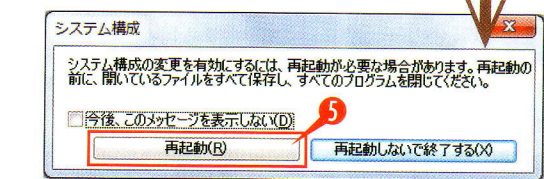


図3 すると、このような画面が表示されて再起動を促されるので、⑤[再起動] をクリック。これで次回のWindows起動以降、チェックを外したスタートアップ項目は自動では起動されなくなる。

ctfmon
日本語入力を行うための「言語バー」の表示に必要なプログラム。

HD Audio Control panel
リアルテック製サウンドチップの制御ソフト。音を出すために必要。

NvCpl
NVIDIA (エヌビディア) のグラフィックスカードに必要なプログラム。

Microsoft Office IME 2010
日本語入力ツール「IME 2010」のプログラム。

スタートアップもサービスと同様に、つねに動作し続けていてCPUとメモリを消費し、パソコンが遅くなる原因になるので、使わないものは削除しましょう。余分なスタートアップの削除は、付属の管理ツール「システム構成」で行います。まず「ファイル名を指定して実行」画面で「msconfig」と入力し、「OK」をクリックします【図1】。「システム構成」画面の「スタートアップ」タブで、不要な項目からチェックを外し「OK」をクリックしてください【図2】。次の画面から再起動すれば完了です【図3】。

サービスと同じく、どのスタートアップ項目を削除したらよいかは、判断がつきにくいものです。上表に削除できるスタートアップ項目を挙げたので、参考にしてください。【図2】の「コマンド」欄が「C:\Program Files」で始まるものの多くは、削除してもすぐに大きな問題は起こりません。間違つたとしても動作がおかしければ、再度「システム項目」画面でチェックを入れて再起動すれば元に戻ります。

また、削除してはいけないスタートアップ項目の代表例も上表に挙げておきました。これ以外にも「コマンド」欄が「C:\Windows」で始まるものは、削除しないでおきましょう。また、セキュリティソフトのスタートアップ項目も、削除しないようにしましょう。

使わない ウィンドウズの機能を無効化する



図4 コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」をクリックして開く。
①「Windows コンポーネントの追加と削除」をクリックすると、「Windows コンポーネントウィザード」が起動する。

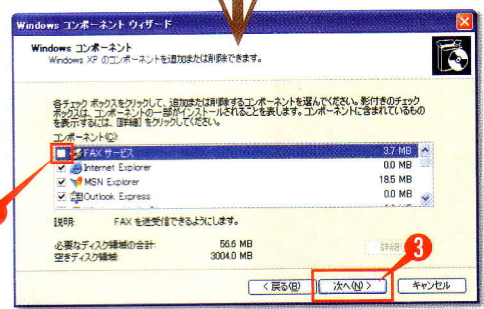


図5 ウィンドウズの機能が一覧表示されるので、
②削除したい機能のチェックを外す。③「次へ」をクリックすると、コンポーネントの再構成が始まる。処理が終わったら「完了」をクリックする。

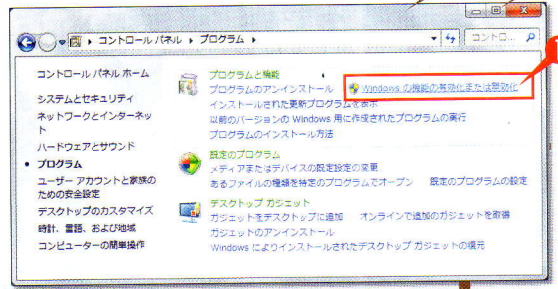


図1 スタートメニューからコントロールパネルを開き、「プログラム」→①「Windowsの機能の有効化または無効化」をクリック。

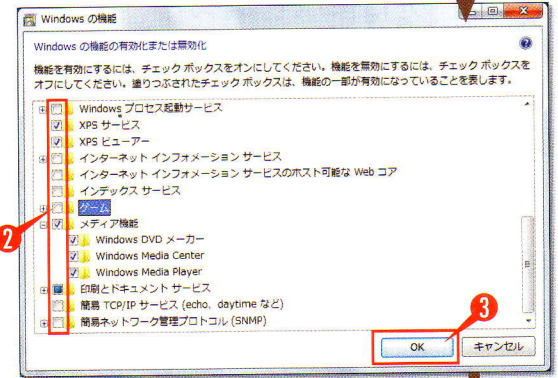


図2 ②不要な機能のチェックを外し、③「OK」をクリック。

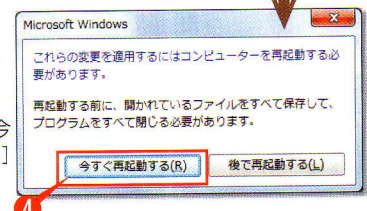


図3 最後に④「今すぐ再起動する」をクリック。

【無効化してもよい機能の候補】

FAXサービス (※XP)
ファクス送受信関連の機能。パソコンでファクスを使わないなら削除。

MSN Explorer (※XP)
マイクロソフトのポータル「MSN」専用の閲覧用ソフト。IEで代替可。

XPSサービス
印刷時、XPS形式のドキュメントへ出力する機能。使わないなら削除。

タブレットPCコンポーネント (※7/ビスタ)
タブレットPC用の手書き入力機能。タブレットPCでなければ削除。

Windowsガジェットプラットフォーム
デスクトップにガジェットを表示するための機能。使わないなら削除。

XPSビューアー
XPS形式のドキュメントの読み取りを行う。XPSを使わないなら削除。

メディア機能 - Windows DVDメーカー
DVDのオーサリングができるツール。使わないなら削除する。

アクセサリとユーティリティーゲーム (※XP)
「ソリティア」などウィンドウズに標準で搭載されているゲーム。

ゲーム (※7/ビスタ)
ウィンドウズに標準で搭載されているゲーム。

メディア機能 - Windows Media Center
動画、音楽などをまとめて管理・観賞できるソフト。使わないなら削除。

メディア機能 - Windows Media Player
動画や音楽などを視聴できるプレーヤーソフト。使わないなら削除。

なお、XPの場合は無効化ではなく削除になるので、ハードディスクの空き容量も増えることになります。

①「Windows コンポーネントの追加と削除」をクリックすると、「Windows コンポーネントウィザード」が起動する。

②削除したい機能のチェックを外す。③「次へ」をクリックすると、コンポーネントの再構成が始まる。処理が終わったら「完了」をクリックする。

④「今すぐ再起動する」をクリック。

タブレットなどを「使わないなら無効化」

サービスやスタートアップと同様に、「ウィンドウズの機能」についても、不要なものは無効化すればパソコンの高速化につながります。ウィンドウズの機能を細かく見ていけば、複数のサービスやプログラムで実現されているので、機能を無効化すれば関連のサービスやプログラムを一気に無効化できるのです。ウィンドウズの機能はゲームやガジェットなどおなじみの機能から、印刷やネットワークなど裏側で動く機能まで多岐にわたります。

ウィンドウズの機能の無効化は、7やビスタなら「Windowsの機能」画面で「図1〜3」、XPなら「Windows コンポーネントウィザード」で行います。「図4〜5」。無効化したあとは再起動が必要になります。ウィンドウズの機能についても、無効化してもよい候補をリストアップしておきました。説明を読んで自分が使わない機能を無効化してください。無効化してしまっても必要になれば、「図2」または「図5」の画面を開き、チェックを入れるだけですぐに復旧できます。